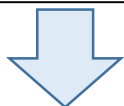


現計画

- 基本目標1 全ての子どもの育ちを支える環境づくり
全ての子どもが幼児期に教育・保育を受けられる環境づくり、
地域における子育て支援の充実、子どもの人権を尊重した
環境づくり
- 基本目標2 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり
家庭・地域・学校における子どもの人間形成や子どもの主体的な
活動を尊重する取り組み、次代の親としての子どもの人間形成を
支える環境づくり
- 基本目標3 子育て家庭を支える環境づくり
社会的支援を必要とする家庭への支援や健康で子育てできる
支援など、地域や社会が保護者に寄り添い、安心して子育て
できる環境づくり
- 基本目標4 子育てを社会全体で担う意識と環境づくり
ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくり、晩婚化による
晩産化や未婚化などの問題に対する取り組み



課題

- 女性の活躍による保育ニーズの増加及び多様化
- 幼児教育・保育無償化に伴う影響
- 働き方改革によるワークライフバランスの充実
- 社会的支援を必要とする家庭の増加
 - ・障害がある児童及び発達に心配のある児童
 - ・外国人就業者増加に伴う外国人家庭
 - ・子どもの貧困
- 災害時における子育て家庭への支援
- 晩婚化による晩産化、未婚化の増加



次期計画策定の方針

基本理念

『豊かな愛情で未来への架け橋を育むまち とよはし』
の実現

現計画4年目に入り、変化してきた社会情勢も
含め、課題に対応できる計画を検討していく必
要がある。

また、少子化の進行を緩和させる取り組みや、社
会的支援を必要とする家庭も多様化してきてい
るなかで、支援を必要とする家庭に、必要な支
援を届けるための方策を検討していかなけれ
ばならない。

現計画の基本理念をもとに、目標のさらなる充
実を目指すため、基本目標やそれぞれの施策
の方向性についても再度検討していく必要があ
る。